## 調查報告書



令和 5 年 11 月 21 日

小牧市議会議長 様

会派名 日本共産党小牧市議団 代表者氏名 安江 美代子

調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1調查日

令和5年11月14日(火)·11月17日(金)

2調査先及び調査項目

(1) 調 査 先: 大口町

調査項目:高齢者外出支援サービスについて

コミュニティバスについて

(2) 調 査 先: 江南市

調査項目: いこまい CAR について

高齢者福祉タクシー料金助成事業について

障がい者福祉タクシー料金助成事業について

3参加議員

安江 美代子、山田 美代子、猪飼 健治

4調查內容

別紙のとおり

# 大口町視察内容①

① 日時

令和5年11月14日(火)9時30分から10時40分

· ②訪問先

大口町ほほえみプラザ

③説明者

健康福祉部長寿ふくし課 課長 前田憲吾、課長補佐 近藤裕子

④調查項目

高齢者外出支援サービスについて

⑤視察先の選定理由や目的

近隣市町である大口町の事業内容を参考にするため。

⑥視察項目の概要説明

外出時に何を使用しているか等のアンケート結果を参考に令和3年度に 高齢者外出支援サービスの改正がなされた。

事業内容 1年間 下記の3種類から選ぶ。

- ・コミュニティバス:回数券 66回分(1乗車 100円)
- ・タクシー:24 枚綴り2冊 48枚(基本料金を助成)
- ・コミュニティバスとタクシー:バス回数券 33 枚 タクシー券 24 枚

対象者 本人が町民税非課税で、次のいずれかに該当する方

- ・満80歳以上の方
- ・介護保険 要介護1から5の認定を受けた方
- ・満75歳以上の単身者または満75歳以上の方のみで構成される世帯申請場所・申請方法

長寿ふくし課窓口に本人または家族が申請、ケアマネジャーによる代理申請の場合は委任状が必要。

令和 4 年度利用実績

対象者 1,632 人に対して申請者は 554 人 申請率 33.9%

バス回数券 17人、タクシー券 364人、両方 173人

令和 4 年度決算額 472 万 5,380 円 (タクシー基本料金助成)

令和5年度予算額 540万円

### ⑦今後の課題

利用者がこのまま増え続けた場合、制度内容の見直しを検討する必要も 考えられるが今のところは変えない。

# ⑧考察(小牧市への反映)

小牧市は要介護 1 から 5 の認定を受けた方へタクシーの初乗り料金を助成する利用券を年間 24 枚配布している。昨年 10 月から始まった制度ではあるが、利用人数は交付人数に対して約 1 割の方が利用、令和 5 年 4 月から 9 月の半年間の利用枚数は 1,269 枚と交付枚数 67,848 枚に対して 1.8% とかなり低い。このことは高齢者の外出支援ニーズにあってないのではないかと考える。

# 大口町視察内容②

① 日時

令和5年11月17日(金)13時から14時

②訪問先

大口町役場

③説明者

地域協働部 町民安全課 課長補佐 近藤和彦

④調査項目

コミュニティバスについて

⑤視察先の選定理由や目的 大口町の事業内容を詳しく調べるため。

⑥視察項目の概要説明

4路線(基幹ルート・北部ルート・中部ルート・南部ルート)全てのルートは大口町役場が起点となっている。ポンチョタイプ3台、ハイエース11人乗り1台で全町をカバーしている。

・時刻表:毎日運航便、平日 朝夕運航便がある。12月29日~1月3日 は運休。

> バスサポート隊 NPO 法人まちねっと大口の事務局が個人の生活 にあった時刻表を作成してくれる。

- ・料金:1乗車 100円、1日乗車券 200円、小学生以下は無料。 回数券は11枚綴り 1,000円と2,000円の2種類がある。
- \*小牧市のこまくるに乗り換えることができるバス停が3か所(東海理 化前・藤ノ木橋・替地)ある。

運行経費は約7,000万円、乗車券収入は利用者約9万人で約1,000万円。

⑦今後の課題

運転手不足と 2024 年問題で運行に支障が出てくると、便数を減らすことも考えないといけない。

⑧考察

小牧市の巡回バスこまくるは近隣の市町と比較して大変充実していることがわかった。しかし、運転手不足は全国的な問題であり、さらにこまくるの充実は住民からの要求の声である。小牧市は令和8年4月のこまくるの改正にむけて検討を重ねているので、注視していきたい。

# 江 南 市 視 察 内 容

1 日時

令和5年11月17日(金) 15時から16時

2 訪問先

江南市役所 3 階 会議室

3 説明者

江南市役所 都市整備部都市計画課長 伊藤 達也 様 健康福祉部高齢者生きがい課長 平野 優子 様 健康福祉部福祉課 石田 哲也 様

4 調査項目

公共交通等(いこまい CAR、高齢者・障がい者福祉タクシー料金助成) 事業について

5 視察先の選定理由及び目的

現在のところ小牧市では、巡回バス「こまくる」事業、高齢者タクシー料金助成事業等に取り組んでいるが、高齢者タクシー料金助成事業については、まだ取り組みを開始してから間もなく、今後改善を要する点があると考えられる。そのため、他市の公共交通の取り組みを参考とするために、本視察を実施した。

### 6 視察項目の概要説明

「いこまい CAR 事業」、「高齢者福祉タクシー料金助成事業」、「障がい者福祉タクシー料金助成事業」それぞれについて、以下の項目について説明を受けた。

- ①事業概要(事業実施に至った経緯、事業の実施内容等)について
- ②事業費について
- ③事業の評価(事業の効果、市民の評価等)について
- ④今後の課題について

## (1) 「いこまい CAR」 事業

- ①事業概要(事業実施に至った経緯、事業の実施内容等)について
- ・平成 14 年当初は定時定路線でスタートした「いこまい CAR」は、平成 21 年 10 月以降、路線バスを補完する公共交通として市内の移動を担 う事業という位置づけで、「買い物」「通院」など、計画的な昼間の 外出に対して補助を行うデマンド型(ダイヤなし、固定路線なし)の タクシー事業となった。
- ・対象は、義務教育終了以上の年齢で、福祉タクシー料金助成を受けて いない市民となる。
- ・契約タクシー事業者は4社で、通常のタクシー運賃の半額が補助となる。ただし、送迎料金(200円)・予約料金(名鉄タクシーのみ 300円)は自己負担となる。運行途中での立ち寄りも可能となっている。
- ・利用希望者は、利用者登録を行ったうえで、前日までのタクシー事業 者へ直接電話で予約を行う形で、利用することになる。
- ・利用実績としては、令和 4 年で、利用者数 2408 人、利用回数 65134 回となっている。
- ・利用者全体の7割以上が70歳以上の高齢者、利用は平日の午前中が多くなっている。
- ・利用目的は、通院が 58.4%、買い物が 18.2%と、多数を占めている。
- ・利用料金は、1000円までが 42.3%、2000円までが 92.4%となっている。

#### ②事業費について

- ・予算は一般財源で、令和4年度の市の負担額は、約3237万円である。
- ③事業の評価(事業の効果、市民の評価等)について
- ・年間 54000 便と、多くの利用者がいる。高齢の方の利用が多く、 「ドアツードア」のニーズも大きくなっている。
- ドライバーの確保などが問題となっている。

#### ④今後の課題について

- ・対象者が広いので、市の負担も年々増加している。
- ・現在、「いこまい CAR 事業」、「高齢者福祉タクシー料金助成事業」、 「障がい者福祉タクシー料金助成事業」は選択制となっているが、 併用ができないか検討課題。

## (2)「高齢者福祉タクシー料金助成事業」

- ①事業概要(事業実施に至った経緯、事業の実施内容等)について
- ・福祉の増進を図るため、当初障がい者のみであった福祉タクシー料金 助成事業の対象者を、高齢者にまで広げた事業。平成4年度より実施 している。
- ・対象は 85 歳以上の高齢者。所得制限はない。85 歳以上とした理由は 不明。
- ・タクシーの初乗り運賃分(基本料金)のチケットを、対象者に年間 48 枚(24枚×2冊)配布している。
- ・利用率は、令和 4 年度で、25.3%。
- ②事業費について
- ・令和 5 年度予算で、600 円×15600 枚=約 936 万円。
- すべて一般財源(国や県からの補助金なし)。
- ③事業の評価(事業の効果、市民の評価等)について
- ・コロナ禍で、利用率は令和2年度は22%台と低かったが、令和4年度は25%台に戻ってきている。
- ・年間 10 枚までしか使わなかった人が 46.0%と多い。その理由は、「機会がなかった」「家族が送迎する」というものが多く、合わせて 66.8% だった。
- ④今後の課題について
- 利用率が25%台と低くなっている。

### (3)「障がい者福祉タクシー料金助成事業」

- ①事業概要(事業実施に至った経緯、事業の実施内容等)について
- ・昭和 55 年に開始された事業で、市内在住の障がい者が、タクシーを利用して医療機関へ通院する場合のタクシー料金の一部を助成する事業である。
- ・タクシーの初乗り運賃分(基本料金)のチケットを、対象者に年間 48 枚(24枚×2冊)配布している。
- ・対象者は、身体障害者手帳 1·2 級所有、療育手帳 A 判定等の障がい者。
- ②事業費について
- ・令和5年度予算で、540円×8800枚=約475万円。
- ・すべて一般財源(国や県からの補助金なし)。

- ③事業の評価(事業の効果、市民の評価等)について
- ・コロナ禍で、利用率は令和元年~4年度まで22%台と低くなっている。
- ・年間 10 枚までしか使わなかった人が 58.4%と多い。その理由は、「機会がなかった」「家族が送迎する」というものだった。
- ④今後の課題について
- ・利用率が22%台と低くなっている。

### 7 視察者 (議員) からの主な質疑応答

- (1)「いこまい CAR 事業」について
  - 質1 タクシー会社とは何社と契約しているか?
  - 答1 4社と契約している。
  - 質2 料金割引は、どうなっているか?
  - 答 2 タクシー運賃の半額補助だが、他に予約料に 300 円、送迎料に 200 円かかる。予約料をとっているのは、名鉄タクシーのみである。
  - 質3 以前は知らない人と乗り合わせていたと思うが、制度が変わった のか?
  - 答3 以前の定期便タクシーの制度は平成25年に廃止になった。現在 は予約便のみ。
  - 質4 「立ち寄り制度」とは何か?どの程度利用があるか?
  - 答4 「立ち寄り」家族でも誰でも登録なしで途中から乗ることができる仕組み。令和5年で800件ほど利用がある。
  - 質5 現在どのような問題点があるか?
  - 答 5 運転手不足が大きな問題になってきている。とにかく新しい公共 交通制度・システムが、近い将来必要になるかもしれない。自動運 転も視野に入ってくるかもしれない。
  - 質 6 ドアツードアの要望、タクシーの要望は多いと考えるが、どうか?
  - 答 6 全ての人の要望を全てかなえるというのは難しい。ターゲットを 絞っていくことがどうしても必要だと考える。

- (2)「高齢者福祉タクシー料金助成事業」について
  - 質1 対象を85歳以上とした理由は何か?80歳以上という声はあるか?
  - 答 1 対象年齢が 85 歳の理由は不明である。80 歳以上にという要望は あるといえばある。
  - 質2 申請制度はどのようになっているか?
  - 答2 毎年3月より専用窓口を設けて申請を受け付けている。それ以降 は、いつでも窓口で受け付けている。申請は代理人でも保険証があ れば大丈夫になっている。
  - 質3 年度の途中申請でも、48枚配布されるのか?
  - 答3 年度の途中申請でも、48枚配布される。
  - 質4 小牧と比較すると利用者は多いが、利用率 25%をどのように評価 するか?
  - 答4 初乗り分の助成なので少ないところはあるかもしれない。しかし 喜ばれて利用されており、なくすことはできない。ただし今後、対 象者の見直しは必要になるかもしれない。
- (3)「障がい者福祉タクシー料金助成事業」について
  - 質1 タクシー料金は、現金決済か?
  - 答1 カード利用も可能。
  - 質2 料金の助成はどうなっているか?
  - 答 2 障がい者福祉タクシーは料金が高いが、初乗りワンメーター運賃 は無料となる。
  - 質3 免許証返納の人に特典はあるか?
  - 答3 タクシー料金1割引となる。タクシー券と併用が可能。



